株主の皆さまへ

第41期中間報告書

2013.3.1 ~ 2013.8.31

イオンディライト株式会社

証券コード：9787

Report of This Term　2014年2月期第2四半期のご報告

3期連続増収、4期連続増益を達成

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。第41期第2四半期連結累計期間（2013年3月1日～2013年8月31日）における業績と事業への取り組みにつきまして、以下、ご説明いたします。

代表取締役社長
中山（なかやま） 一平（いっぺい）

■経営環境

近年、企業や公共団体では、ファシリティ（施設・設備）を第四の経営基盤と位置づけ、保有する建物、使用する全施設、資産、及びそれらの利用環境の総合的・効率的な管理・運営を目指す「ファシリティマネジメント」に注目が集まっています。当社グループは建物の総合管理に加え、周辺事業のアウトソースニーズを一括してお引き受けする「総合ファシリティマネジメントサービス（総合ＦＭＳ）」の国内におけるパイオニアであり、IT化の推進や省エネソリューションの確立など、社会のトレンドに対応した総合FMSの進化に取り組んでいます。

■当期間の業績

当第２四半期連結累計期間の売上高は1,335億52百万円(対前年同期比105.3%)で、3期連続の増収となりました。新規受託及びLED工事受託に加え、新たに連結対象となった子会社の寄与によるものです。また、積極的な投資などを実施した結果、営業利益は75億75百万円(同106.5%)、経常利益は75億71百万円(同106.3%)、四半期純利益は41億47百万円(同105.1%)となり、４期連続増益を果たすことができました。

■当社グループの主な取り組み

・国内における新たなサービスの提供先

IT化の推進により、お客さまへの迅速な対応を実現する新たな営業スタイルの構築を進めました。タブレット端末を営業担当者に配布し、直行直帰型の営業スタイルへ変革したことにより、各担当者の訪問件数が増え、お客さまと接触する時間が大幅に増加しています。また、インターネットによる地図検索サービスを活用した営業情報のコミュニケーションシステム「AD-Map」を新たに導入、案件情報のタイムリーな更新や、進捗情報・過去営業履歴のリアルタイム共有が可能となりました。

こうした取り組みを通じ、お客さまのニーズを一層汲み取ることに注力した結果、大型商業施設、都市型ホテル、医療福祉施設、ドラッグストアチェーンなど、幅広い分野で新たなお客さまにサービス提供ができるようになりました。

・海外における総合FMS事業のさらなる拡大

中国・アセアンにおいても総合FMS事業の拡大を推進しています。中国ではサービスの提供先を、イオングループ以外のお客さま58物件を含む、計94物件にまで拡大しました。

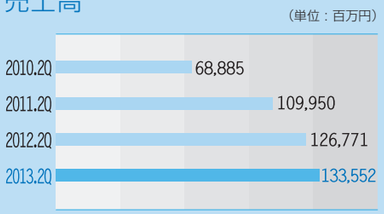
各省をひとつのエリアと捉え、地域の有力企業とネットワークを構築するエリア戦略を推進しており、本年7月には天津市、蘇州市に続き湖北省武漢市で、現地の建物管理最大手「武漢小竹物業管理有限公司」の株式を取得、この地域で事業を拡大する体制を構築しました。

一方、2012年12月より事業を開始したマレーシアでは、オフィスの清掃事業やショッピングセンターにおける自動販売機運営事業を中心にお客さまを増やし、サービスの提供先は25物件となりました。

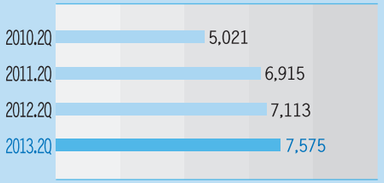
また、2013年1月より事業を開始したベトナムでは、建設施工や資材関連を中心にお客さま19物件にサービスの提供を開始するとともに、2014年1月オープン予定のイオン1号店開業に向けた準備を進めました。

[連結財務指標]

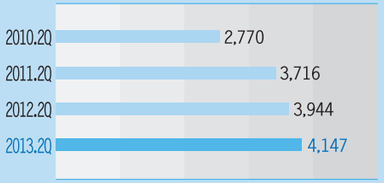
売上高



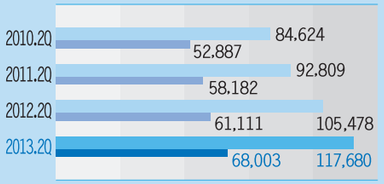
営業利益



四半期純利益



総資産・純資産



Consolidated Financial Sheets 連結財務諸表（要約）

（百万円）

連結貸借対照表	当第2四半期連結会計期間 2013年8月31日	前連結会計年度 2013年2月28日
（資産の部）		
Ⅰ.流動資産	95,983	79,323
Ⅱ.固定資産	21,697	21,375
有形固定資産	4,026	3,796
無形固定資産	11,907	12,321
投資その他の資産	5,763	5,257
資産合計	**117,680**	**100,699**
（負債の部）		
Ⅰ.流動負債	48,314	34,955
Ⅱ.固定負債	1,362	1,195
負債合計	**49,677**	**36,151**
（純資産の部）		
Ⅰ.株主資本		
資本金	3,238	3,238
資本剰余金	18,785	18,770
利益剰余金	43,479	40,539
自己株式	△455	△458
株主資本合計	65,047	62,089
Ⅱ.その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,203	940
為替換算調整勘定	225	52
その他の包括利益累計額合計	1,429	992
Ⅲ.新株予約権	206	205
Ⅳ.少数株主持分	1,320	1,260
純資産合計	**68,003**	**64,547**
負債純資産合計	**117,680**	**100,699**

（百万円）

連結損益計算書	当第2四半期連結累計期間 2013年3月1日～2013年8月31日	前第2四半期連結累計期間 2012年3月1日～2012年8月31日
Ⅰ.売上高	133,552	126,771
Ⅱ.売上原価	116,570	111,789
売上総利益	16,981	14,982
Ⅲ.販売費及び一般管理費	9,406	7,869
営業利益	7,575	7,113
Ⅳ.営業外収益	92	135
Ⅴ.営業外費用	96	124
経常利益	7,571	7,124
Ⅵ.特別利益	12	–
Ⅶ.特別損失	6	39
税金等調整前四半期純利益	7,578	7,084
法人税、住民税及び事業税	3,183	2,674
法人税等調整額	162	430
法人税等合計	3,346	3,105
少数株主損益調整前四半期純利益	4,231	3,978
少数株主利益	84	33
四半期純利益	4,147	3,944

（百万円）

連結キャッシュ・フロー計算書	当第2四半期連結累計期間 2013年3月1日～2013年8月31日	前第2四半期連結累計期間 2012年3月1日～2012年8月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	13,083	△1,600
投資活動によるキャッシュ・フロー	△8,414	1,887
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,265	△1,119
現金及び現金同等物に係る換算差額	127	△42
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	3,529	△874
現金及び現金同等物の期首残高	9,676	9,179
現金及び現金同等物の四半期末残高	13,206	8,304

Column

自販機いろいろ

日本中、どこに行っても見かける自動販売機。その台数は2012年末で約509万台、年間売上高は5兆3,750億円（一般社団法人・日本自動販売機工業会調べ）に及びます。ただ、自販機と言っても種類はさまざま。今回は、イオンディライトで扱う自販機の一部をご紹介します。

ドリンクコンチェルト（混合自販機）

飲料自販機でよく見かけるのは、特定の飲料メーカーの商品のみを扱う「メーカー機」。これに対し「ドリンクコンチェルト」は、各メーカーの人気商品・売れ筋商品を集めた「混合機」です。少ない台数で効率良く売上を確保できるため、場所も取らず電気代も削減できます。

トイ機

子ども向けのオモチャなどを販売する「トイ機」。スーパーなどでお馴染みの「ガチャガチャ（カプセル機）」が有名ですが、最近ではゲームで使えるトレーディングカードを販売する「カード機」、飴玉やガムを扱う「スイーツベンダー」なども増えています。

WAON（ワオン）機

イオングループが提供する電子マネー「WAON（ワオン）」が使える自販機。カードや携帯電話を端末に触れさせるだけで、コインレスでお買い物をしていただけます。中には、「ID」や「楽天Edy」といった複数型式の電子マネーが使えるものも。

この他にもイオンディライトはさまざまな種類の自販機を取り揃えており、POSデータ分析にもとづくマーケティングから適時巡回による商品補充までの総合サービスも提供。観葉植物や分煙機なども取り揃え、自販機を核としたトータルなリフレッシュメントスペースも提案しています。

Segment Information セグメント概況

設備管理事業

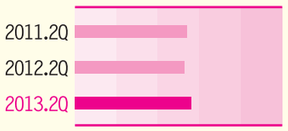
売上高
214億70百万円
（対前年同期比101.6%）

- イオングループの大型店舗に加え、グループ外の大型スタジアム、官公庁などを新規受託。
- 前期に受託したリゾートホテルや県立病院などの通年寄与もあり増収に。

警備事業

売上高
168億5百万円
（対前年同期比106.3%）

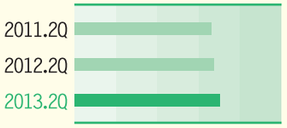
- 従来の警備に接遇サービスを取り入れたアテンダーサービスを新たに9店舗に導入。中国青島の「マックスバリュ青島 万邦中心店」でも提供し好評。
- Jリーグのリーグマッチなど大型イベントの警備も多数受託。



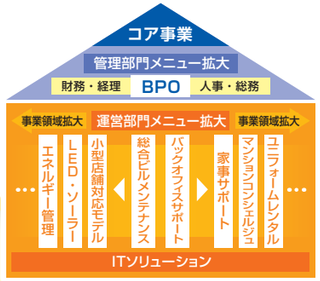
清掃事業

売上高
210億24百万円
（対前年同期比104.0%）

- 当社オリジナルのコーティング剤を提案、新たに174物件に導入。定期清掃の剥離作業を不要とし、ランニングコスト削減に大きく貢献。
- 委託先集約により清掃ノウハウを水平展開、業務品質の向上、生産性の標準化を推進。



総合FMS（ファシリティマネジメントサービス）とは?

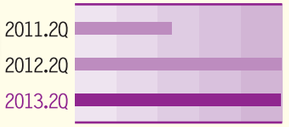


企業の経営環境整備をワンストップでサポートし、ライフサイクルコストの最小化を実現するサービスです。

グローバル経済が進展し、技術革新によって新しいビジネスやサービスが次々と誕生するなか、急激に変化を遂げる事業環境に柔軟・迅速に対応できるか否かが、企業の成長を大きく左右するカギとなっています。

イオンディライトでは、お客さまがコアビジネスに集中できる経営環境の実現に向けて「総合FMS（ファシリティマネジメントサービス）」を構築。業種・業態を問わず、あらゆる周辺業務（ノンコア業務）をサービスメニュー化し、ワンストップソリューションとして提供しています。企業競争力の強化はもちろんのこと、ライフサイクルコストの最小化を実現してまいります。

建設施工事業



売上高
298億17百万円
（対前年同期比99.5%）

- LED化を実施したお客さま店舗で、電力削減に加え熱量低減効果を通じた空調のガス消費量削減も実現、総体的なエネルギー消費量を平均約20%削減。
- 電気料金の値上げ対策として省エネ投資が進んだこともあり、LEDの販売及び施工工事の売上高が向上。

資材関連事業

売上高
217億44百万円
（対前年同期比112.7%）

- 昨年イオングループ入りした各社との包装資材、衛生資材などの新規取引を開始。
- さらに、生鮮食料や惣菜で使用するトレーやラップといったフードパックの需要集約を推進した結果、売上高を大幅に伸ばす。

自動販売機事業

売上高
162億14百万円
（対前年同期比100.8%）

- 電子マネー対応型や低価格自動販売機による新規設置先の開発を推進。
- 昨年以降イオングループ入りした各社への新規設置も増え、期間末の飲料自販機管理台数は約1,400台の純増に。

サポート事業

売上高
63億97百万円
（対前年同期比149.1%）

- 家事代行パッケージ商品「家事玄人（カジクラウド）」の販売チャネルを大手家電量販店など全国約3,000店舗に拡大。大ヒットとなり、売上高及び収益性の向上に貢献。
- 新たに連結対象となったグループ各社の業績も寄与。

ITソリューション導入による効率化・経営改善

当社グループは、2012年よりITソリューションの導入を積極的に進めています。その結果、従業員の働き方が大きく変化するとともに、効率化・経営改善にも繋がりました。今回はそのなかのいくつかをご紹介します。

●「どこでもオフィス」ソリューションの活用で、社外活動時間が約2倍に！

社内のどこからでも自分のパソコン画面にアクセス可能なシンクライアント*1システム、外出先でも同じIT環境を利用出来るタブレット端末を導入しました。今までの営業担当者の働き方であったお客様訪問後、一度帰社し報告書作成等をする業務形態を一掃。各ご訪問先への移動時間等の隙間時間を利用してメールチェックや報告業務を済ませることができる「どこでもオフィス」ワークスタイルへ移行しました。

これらの取組みにより、営業時間を含む社外活動時間が全体の33%から約2倍の60%近くまで増え、お客さまに対するご提案時間をより多く作れるようになりました。またタブレット端末は、お客さまにその場で商品説明の動画などをご覧頂け、営業活動の差別化にも役立っています。

● トータルのインフラコストは11%削減

今回のITソリューション導入では、働き方改革に向けたシステム導入やセキュリティ強化のための投資のほか、従来のネットワーク等のインフラの見直しや既存システムを自社サーバからクラウドへの移管等、改善を合わせて行っています。その結果、IT関連コストは昨年より11%削減できました。

● 今後の展望

これらのITソリューション導入については、営業を中心に、現在は支店やセンター、海外を含む関係会社にまで導入を進めています。今後は、クラウドを活用し施設を管理する「ファシリティ・マネジメント・ソリューション」システムと合わせてイオンディライトグループ全体のIT装備率向上を推進、更なる効率化とそれに伴う経営改善に繋げていきます。

＊1 シンクライアントとは、サーバーの中に仮想パソコンを置き、手元の端末から操作するクラウド技術を使ったシステム。この仮想パソコンのデータは、物理的に外部に取り出すことができないため安全性が高く、ソフトのバージョンアップなどの管理・運用コストの低減にも繋がる。

FMS ソリューション株式会社
代表取締役社長　柴山　浩
イオンディライトグループのIT装備率向上・競争力強化に繋げるため、2011年よりIT関連ソリューションを担う会社として設立。

〒261-0023
千葉県千葉市美浜区中瀬1-5-1イオンタワー11F
TEL：043-388-8500

interview

FMSソリューション株式会社
BPR推進部
BPR/BPOグループ
神 将人（じん まさと）さん

1. ITツール導入の中で担当された職務は何ですか。

タブレット端末、どこでも自分のIT環境を利用できるシンクライアントシステム、新しいグループウェアの導入を行いました。

2. 導入の際、最も苦労したことを教えてください。

働き方を改革する！の名のもとに推進していくわけですが、使い勝手と親和性を考慮した計画と実際の現場の状況とのギャップ、改革に対する抵抗感が壁でした。ユーザーの皆様への説得を重ね、理解を求めながら推進したことが苦労したことです。

3. これから目指していきたいことは何ですか。

せっかくの最新ツールも利用して初めて効果が出ます。今後は利便性向上の為に更に業務に役立つシステムの開発が急務と感じています。私はこのシステム開発にチャレンジし、働く全ての人にとって最高のIT環境を構築していきたいと考えています。

Topics　トピックス

床保護剤「イオンディライトコート」を開発・販売

当社は、2012年度より床保護剤「イオンディライトコート」を大手化学薬品メーカーとのアライアンスで開発して展開を進めています。「イオンディライトコート」は安全性の高い水性コート剤で、従来の樹脂ワックスに比べて高光沢、キズに対しての復元能力が高く耐久性のある商品です。はく離作業※1が不要となることで、産業廃棄物となるはく離廃液の排出抑制も可能です。コスト面、品質面、環境配慮面でお客さまのニーズにお応えするサービスとして、今年度上期は174物件で展開しました。

2013年度は、更に床を研磨するバフィング作業※2が不要となる「イオンディライトハードコート」の開発と導入を進めています。

※1 はく離作業…古いワックスを専用の薬剤を用いて除去する作業。
※2 バフィング作業…床面のワックス面を研磨し、表面を平滑にし光沢を出す作業。

WAONカードを利用した電気自動車充電サービスを開始

当社は2012年に電気自動車用充電器を開発、また更にお客さまの更なる利便性向上に繋がるWAONカードを利用した充電サービスの提供を開始しています。このサービスはWAONカードでお客さまにご利用登録頂き、カードリーダーをタッチすることで簡単に充電をご利用頂けるというものです。従来の煩雑なオペレーションが不要となったうえ、利用者情報をクラウドシステムで一括管理することで、充電時間や頻度などの利用実態を把握出来、より効率的な運用も可能となりました。

既に実証実験を終え、イオンレイクタウン（埼玉県越谷市）においてはサービスを提供しております。今後更に多くの店舗で、WAONカード認証によるサービスを拡大していく予定です。

Corporate Data　会社概要（2013年8月31日現在）

社　　名	**イオンディライト株式会社** **ÆON DELIGHT CO., LTD.**
創　　業	1972年11月16日
資 本 金	323,800万円
事業内容	総合FMS（ファシリティマネジメントサービス）事業
従業員数	3,804名　グループ合計9,180名
本社所在地	【大阪本社】 〒542-0081 大阪市中央区南船場2-3-2 南船場ハートビル 【東京本社】 〒104-0044 東京都中央区明石町8-1 聖路加タワー8F
連結子会社	イオンディライトアカデミー株式会社 イオンディライトセキュリティ株式会社 環境整備株式会社 株式会社ドゥサービス エイ・ジー・サービス株式会社 株式会社カジタク FMSソリューション株式会社 イオンコンパス株式会社 株式会社ジェネラル・サービシーズ Ａライフサポート株式会社 永旺永楽（中国）物業服務有限公司 永旺永楽（杭州）服務外包有限公司 永旺永楽蘇房（蘇州）物業服務有限公司 武漢小竹物業管理有限公司 AEON DELIGHT（VIETNAM）CO.,LTD. AEON DELIGHT（MALAYSIA）SDN.BHD.　その他8社

取締役・監査役・執行役員

代表取締役社長	中山一平
兼 社長執行役員	
取締役	山田隆一
兼 副社長執行役員	
取締役	早水惠之
兼 専務執行役員	
取締役	家志太二郎
兼 専務執行役員	
取締役相談役	古谷寛
取締役	大島学
常勤監査役	渡部和仲
監査役	山浦耕志
監査役	木下裕晴
監査役	高橋信司
常務執行役員	山里夫
常務執行役員	相馬勝
常務執行役員	高橋晋一
執行役員	小林將
執行役員	飯塚貴分
執行役員	原田野男
執行役員	三宅康志
執行役員	滝沢仁幸
執行役員	水戸秀郎
執行役員	宮前吾公
執行役員	杉原英雄
執行役員	遠藤彰浩
執行役員	澤田基之
執行役員	四方千鶴
執行役員	大江明志
執行役員	京本博規
執行役員	定岡

個人投資家向けIRセミナーに参加しました。

2013年9月7日、東京・ベルサール八重洲にて行われた「東京IPO個人投資家向けIRセミナー」に参加しました。

約130名の個人投資家の皆さまにご参加頂き、当社代表取締役社長　中山一平より「イオンディライトの総合FMS事業と成長戦略」と題した講演を行いました。講演では事業紹介、当社を取り巻く事業環境、サービスメニューの拡大、新たな市場機会、株主還元方針などについてご説明しました。

株主メモ

事業年度	3月1日から翌年2月末日
基準日	2月末日 （そのほか必要がある場合はあらかじめ公告いたします。）
定時株主総会	5月
単元株式数	100株
権利確定日	期末配当　毎年2月末日 中間配当　毎年8月31日
上場証券取引所	東京証券取引所市場第一部
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社　証券代行部
お取扱窓口	証券会社等に口座をお持ちの場合、住所変更や買取請求等株主様の各種お手続きは、原則として口座を開設されている証券会社等経由で行なっていただくこととなりますので、ご利用の証券会社等へご連絡をお願いいたします。 証券会社等に口座をお持ちでない場合（特別口座の場合）、下記のお取扱店にてお取次いたします。 なお、支払明細の発行に関するお手続につきましては、みずほ信託銀行の下記連絡先にお問合せください。
お問合せ先	〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行　証券代行部 フリーダイヤル　0120-288-324 （土・日・祝日を除く9：00～17：00）
お取扱店	みずほ証券 本店、全国各支店および営業所 プラネットブース（みずほ銀行内の店舗）でもお取扱いたします。 ※カスタマープラザではお取扱できませんのでご了承ください。 みずほ信託銀行 本店および全国各支店 ※トラストラウンジではお取扱できませんのでご了承ください。
未払配当金のお支払	みずほ信託銀行　本店および全国各支店 みずほ銀行　本店および全国各支店 （みずほ証券では取次のみとなります）

株式の状況（2013年8月31日現在）

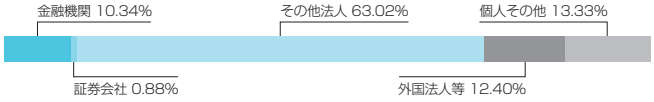
発行可能株式総数	86,400,000株
発行済株式総数	54,169,633株
株主数	9,576名

大株主の状況（千株未満切り捨て）　所有比率は発行済株式に対する比率です。

順位	株主名	所有株式数(千株)	所有比率(%)
1	イオンリテール株式会社	23,261	42.94
2	イオン株式会社	9,103	16.81
3	日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,556	2.87
4	ノーザン トラスト カンパニー(エイブイエフシー)サブ アカウント ブリティッシュクライアント	860	1.59
5	日本トラスティ･サービス信託銀行株式会社(信託口9)	826	1.53
6	イオンディライト取引先持株会	777	1.43
7	日本トラスティ･サービス信託銀行株式会社(信託口)	753	1.39
8	イオンディライト従業員持株会	661	1.22
9	資産管理サービス信託銀行株式会社（年金信託口）	653	1.21
10	エイチエスビーシー ファンド サービシィズ クライアンツ アカウント 006	501	0.93

（注）上記の所有株式数の他に、当社は自己株式1,697千株(発行済株式総数に対する所有株式数の割合3.13%)を所有しております。

所有者別株式分布状況



ホームページ上で公告・各種資料がダウンロードできます。

http://www.aeondelight.co.jp

木を植えています
私たちはイオンです

地球にやさしいエコペーパーを使用しております。